平成２９年度第２回千葉市生涯学習審議会　議事録

１　日時

平成３０年３月８日（木）午前１０時から午前１１時４５分まで

２　場所

千葉ポートサイドタワー６階６０２会議室（千葉市中央区問屋町１－３５）

３　出席者

（１）委員

伊藤　剛委員、伊藤　美香委員、岩切　裕委員、岩崎　久美子委員、小川　達也委員、小川　直哉委員、金田　榮弘委員、菊池　まり委員、河野　功委員、庄司　三千子委員、武　孝夫委員、長澤　成次委員、廣崎　典子委員

（２）事務局

大崎　賢一生涯学習部長、小林　幹弘中央図書館長、山田　利雄生涯学習振興課長、志保澤　剛文化財課長、君塚　常行生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長、滝田　希成文化財課特別史跡推進担当課長、山口　亮二生涯学習振興課統括管理主事、田島　寛純生涯学習振興課長補佐、土肥　慶典生涯学習振興課主査、西森　照泰生涯学習振興課主査、渡辺　裕之生涯学習振興課主任主事

４　議題

（１）会長、副会長の選出

（２）第５次千葉市生涯学習推進計画の概要について

５　議事の概要

（１）会長、副会長の選出

委員の互選により、岩切委員が会長に、菊池委員が副会長に選出された。

（２）第５次千葉市生涯学習推進計画の概要について

事務局が説明し、各委員の意見を聴いた。

６　会議経過

議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開および会議録の承認方法、会議の成立、職員紹介を行った。

（１）会長、副会長の選出

委員の互選により、岩切委員が会長に、菊池委員が副会長に選出された。

（２）第５次千葉市生涯学習推進計画の概要について

○（岩切会長）

「議題２　第５次千葉市生涯学習推進計画の概要について」、事務局より説明をお願いします。

○（山田生涯学習振興課長）

生涯学習振興課長の山田でございます。

「第５次千葉市生涯学習推進計画の概要について」についてご説明いたします。

第５次千葉市生涯学習推進計画は、平成２８年度から３３年度までの６年間を計画期間としておりますが、平成３０年度は中間見直しの年度にあたります。実際、来年度に入って見直しに着手いただく際には、改めて詳細な資料を提示したうえでご審議いただく予定でございますが、本日はまず、計画の概要を説明させていただきます。

資料１が計画の概要、資料２が計画の進捗状況、資料３が計画書でございますが、資料１と資料２を中心に説明申し上げます。

はじめに、資料１をご覧ください。

第５次千葉市生涯学習推進計画の概要版でございます。

まず初めに、「序章　千葉市の教育行政について」の「（１）第２次千葉市学校教育推進計画・第５次千葉市生涯学習推進計画について」でございますが、法的な位置づけとしましては、教育基本法第１７条第２項に基づく、地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として策定いたしました。

本市の計画行政における個別部門計画として位置づけ、総合計画である基本構想・基本計画・実施計画と連携・整合を図っております。

本市の教育行政における役割としましては、学校教育、社会教育、家庭教育という３つの教育分野のうち、第５次生涯学習推進計画は、主に社会教育を担う計画としております。

また、概念図にございますとおり、千葉市の教育に関する大綱の一部として、「第２次学校教育推進計画」や市長部局のこども未来局策定の「千葉市こどもプラン」と相互に補完しあい、連携して教育行政を推進していくこととしております。

「（２）計画期間」としましては、本市の総合計画である「千葉市新基本計画」に合わせ、平成３３年度までの６年間としております。

「（３）第２次千葉市学校教育推進計画・第５次千葉市生涯学習推進計画の推進にあたって」に記載がございますが、中間年度にアクションプランの見直しをすることとしております。平成３１年度から見直し後の計画で事業を推進する必要があることから、見直し作業は平成３０年度中に行うこととなります。平成３０年度の見直しにあたっては、当審議会においてご意見を賜りたいと考えております。

続いて、２ページから５ページまでは「学校教育推進計画」のため割愛し、６ページをお願いします。

第５次千葉市生涯学習推進計画の総論でございます。計画書では１１１ページから１２４ページになります。

「１（１）策定の基本方針」でございますが、民間と行政が相互に連携・協働しながら学びを生かした活力あるコミュニティの形成に資する計画としております。

「（２）計画策定の背景」でございますが、「ア　生涯学習に対する多様な市民ニーズ」「イ　多様な人が集い連携・協働して学習する仕組みづくりの必要性」「ウ　変化の激しい社会を生き抜く力の必要性」の３点が挙げられ、この背景を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び続け、必要とする様々な力を養い、その成果を社会に生かしていく

ことが可能な生涯学習社会を目指すこととしました。

「（３）計画目標」でございますが、「（２）計画策定の背景」を踏まえまして、「学びはじめ」から「学習機会の提供を受けた学習活動」を経て「学習成果の活用による地域づくり」が実現できる環境づくりを進めるため、「市民が自ら学んだ成果を生かし、活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを進める。～学びを通して地域がつながるまち千葉市～」としております。

「（４）計画策定の３つの視点」は、先ほどの計画目標のとおり「ア　生涯学習の普及啓発」「イ　学習機会の提供等を通じた学習活動の支援」「ウ　学習活動の成果の活用による地域づくり」の３点を掲げております。

次に、「２　第５次生涯学習推進計画の基本的考え方」です。

「（１）計画の対象範囲」でございますが、教育委員会が所掌する事業を中心に、地域社会で実施される社会教育に関する施策と、それに関連する重要施策を対象範囲としております。

「（２）計画の体系」でございますが、「３つの施策展開の方向性、７つの施策、３９のアクションプラン」となっております。この方向性相互の関係について、右側の「概念図」をご覧ください。

図の一番上に計画目標があります。この目標実現のため、まず中央左下の施策展開の方向性「１　学習活動のきっかけの提供」があります。この考えに基づき、施策「１－１　生涯学習の普及啓発」「１－２　学習環境の整備」を実施し、市民の学びはじめをお手伝いします。

そこから上に矢印が伸びて「２　多様な学習機会の確保」につながります。施策「２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」により、多種多様な学習機会を確保し、市民の学習活動を支援します。

ここからさらに右回りの矢印が「３　学びを生かしたコミュニティづくり」につながります。施策「３－１　地域の担い手となる人材育成」「３－２　学習成果の活用機会の提供」「３－３　市民の参加・協働による学習活動の推進」により、学びにより得られた知識や経験が社会に還元される活力あるコミュニティの形成を目指します。

この学びにより得られた知識や経験が社会に還元される過程を通して、新たに多様な学習機会の確保や、学習の必要性が発生します。そこで再度、３から２に戻る矢印が伸びます。

こうして、「『学び』と『活動』の循環サイクル」すなわち「学習活動を通じて『社会が人を育み、人が社会をつくる』」という好循環を目指します。

さらに、この生涯学習活動による好循環を支える体制として、下部の「千葉市の生涯学習を支える連携・協働イメージ」に表記したように、行政のほか、地域団体・社会教育関係団体・企業・NPO 法人ほか各種の関係者が、地域にある課題の解決に努めるために連携・協働することが重要であると考えております。

以上が総論でございます。

次に、７ページをご覧ください。

生涯学習推進計画の各論でございます。計画書では、１２５ページから１４３ページになります。

さきほど、基本的考え方でご説明したとおり、計画は、３つの施策展開の方向性、７つの施策、３９のアクションプランに体系付けています。

表の一番左の列が３つの施策展開の方向性、真ん中の列が７つの施策、右の列が３９のアクションプランです。

表の上段、方向性の１つ目「１　学習活動のきっかけの提供」には、「１－１　生涯学習の普及啓発」「１－２　学習環境の整備」の２つの施策を掲げ、そのアクションプランとして、生涯学習に関する情報発信や、生涯学習センターや公民館、図書館などの生涯学習施設のサービスの向上や施設の改修などを掲げております。

表の中段、方向性の２つ目「２　多様な学習機会の確保」では２つの施策を掲げています。

「２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」のアクションプランとして、加曽利貝塚の国特別史跡指定や文化財の保存・活用の推進など３つの事業、「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」のアクションプランとして、現代的課題学習事業の実施や科学関連事業の実施、放課後子ども教室の推進など１２の事業を掲げています。

表の下段、方向性の３つ目「３　学びを生かしたコミュニティづくり」では３つの施策を掲げており、「３－１　地域の担い手となる人材育成」のアクションプランとして、ボランティアの育成など４つの事業、「３－２　学習成果の活用機会の提供」のアクションプランとして、学習成果の発表機会の提供や生涯学習ボランティアの活動場所の提供など５つの事業、「３－３　市民の参加・協働による学習活動の推進」では、アクションプランとして、多様な主体による学習活動の推進や公民館を拠点とした地域連携の推進など７つの事業を掲げています。

生涯学習推進計画の概要は以上でございます。

続きまして、資料２をご覧ください。

平成２８年度、計画の１年目が終わった段階の進捗状況をまとめた表でございます。

表の左から施策、項目、平成２７年度末の現状値、平成３０年度末の中間目標、平成３３年度末の最終目標、平成２８年度末の実績、進捗状況となっております。

グレーの網掛けの項目が成果指標、白い項目がアクションプランとなっております。

表の説明に入る前に、まずは評価の基準を説明させていただきます。表の下の「進捗状況の見方」をご覧ください。

成果指標における達成状況の記載についてですが、◎○△×の４段階の評価としており、◎は２８年度の現状値が３０年度末の中間目標値以上である場合、○は３０年度中間目標値の６０％を達成している場合、△は３０年度中間目標値の６０％未満である場合、×は２８年度末の現状値が２７年度末の現状値未満であった場合としております。

右下のアクションプランにおける進捗状況の見方についてですが、計画に対して概ね計画通り進捗している場合は「順調」、計画事業が計画期間の途中で終了する場合は「達成」、計画に対して事業進捗に遅れが出ている、または事業規模を縮小した場合は「遅れ」、事業を休止し、次年度以降に再び実施する予定の場合は「休止」、事業を中止し、今後も実施しない場合は「中止」としております。

まずは成果指標の平成２８年度の進捗状況でございますが、施策の１－１から３－３までの１０項目のうち、◎が１項目、○が２項目、△が１項目、×が１項目です。

なお、数値データの出典などの関係で、現状値が未定なため、達成状況が確認できない項目が５項目ございます。

それでは、成果指標の主な項目を説明させていただきます。

「１－１　生涯学習の普及啓発」の２つ目、「生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」でございますが、現状値に比べて３７．１ポイント下降し、進捗状況が「×」となっていますが、アンケートの設問項目の表現を変えたため、ポイントが下がっております。

２ページをご覧ください。

次に、「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」の１つ目、「公民館の講座の参加者の満足度」でございますが、市民の学習ニーズに対応するため、幅広い分野にわたる学習機会の提供を行い、平成２８年度末は２７年度末に比べて０．３ポイントの微増であったため、「△」となっております。

その下の、「『科学都市ちば』の認知度」でございますが、平成３０年度末の目標値以上となりました。理由といたしましては、科学館の入館者数が４１７，４９９人と過去最高であったことや、千葉市科学フェスタメインイベントの参加者数が２０，９１８人と過去最高であったことにより、「科学都市ちば」の認知度が上がっているものと考えられます。次に、表の白い項目、「アクションプラン」の進捗状況でございますが、全部で５６項目のうち、４４項目で、概ね計画どおり進捗しております。

それでは、主な項目を説明させていただきます。

「１－２－１　生涯学習施設等の利用環境の充実」でございますが、生涯学習センターでは、稼働率の低いＡＶ調整室を幅広い用途に使用可能な多目的室に改良するなど、利用促進を図ったことにより、施設稼働率が平成２８年度末で５８．５％と、平成２６年度末に比べて７ポイント上昇しました。

また、公民館では、地域団体等の利用が増えたため、施設稼働率が４６．８％と、平成２６年度末に比べて１．６ポイント上昇しました。

次に、「１－２－４　公民館の改築」でございますが、老朽化により改築することとなりました犢橋公民館について、発注業務や開館準備作業を早めたことや、工事が順調に進んだことから、当初の予定よりも半年早め、平成２９年１０月から供用を開始しております。

次に、「２－１－１　加曽利貝塚の国特別史跡指定」でございますが、指定に向けた取組みとして、今までの発掘調査の成果をとりまとめた「史跡加曽利貝塚総括報告書」を平成２９年３月に刊行し、史跡の価値を示す貴重な資料となっています。また、平成２９年１０月の官報において、文化財保護法の規定により、加曽利貝塚の特別史跡指定が告示され、国の特別史跡として指定されました。

次のページをご覧ください。

「２－２－４　『(仮称) 瑞穂情報図書センター (現：みずほハスの花図書館)』の整備」でございますが、くつろぎながら読書を楽しめるスペースの設置に加え、自動貸出機、タブレット端末及びデジタルサイネージ等のＩＣＴ機器を活用したサービスの導入など、新たな取組みを行う図書館として、花見川区役所１階に整備を進め、平成２９年３月に供用を開始しました。

次に、「２－２－８　放課後子ども教室の推進」でございますが、放課後子ども教室のモ

デル校の１０校では、総合コーディネーターの活動支援により、プログラムの増加とともに実施日数の増加が見られたものの、地域の負担が大きく、１校あたりの実施日数は減少しています。

次に、「３－１－２　ボランティアの育成」でございますが、ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数は、ボランティアを紹介するイベントである「ボランティアフェア」や、ボランティアデータベースへの情報提供などにより、ボランティア人数を増やす取組みを行っていますが、高齢を理由にボランティアを引退する団体もあるため、ボランティア登録者数の増加には至っていない状況です。

資料２の説明は以上でございます。資料３の計画書には、計画の詳細な内容が記載されておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

生涯学習推進計画の説明は以上でございます。

最後に、今後のスケジュールを説明いたします。

平成３０年度の議題は、第５次千葉市生涯学習推進計画の進捗の確認と中間見直しでございまして、計３回の会議を予定しております。

３０年度の審議の際は、より詳細な資料をお示し、ご説明申し上げる予定でございます。私からの説明は以上でございます。

○（岩切会長）

ありがとうございました。

ご丁寧にご説明いただきましたので、概ねご理解いただけたかと思いますが、今回は改選後の最初の会議となりますので、委員相互の情報共有も含め、各委員の皆さまより自己紹介をいただきながら、計画に対するご質問、ご意見等もあればお話しください。

○（伊藤（剛）委員）

中学校長会長の伊藤と申します。

１点質問があります。資料１の６ページの「３　現状と課題」（４）において、ボランティア・地域活動を行ってみたい市民の増加率に比して、実際に活動を行った市民の増加率が伸び悩んでいると書かれておりますが、資料２の２ページ「３－１　地域の担い手となる人材育成」という項目では、平成２７年度末１６．４％に対して平成２８年度末実績では２１．９％と伸びています。これについてどういった状況なのか教えてください。

○（山田生涯学習振興課長）

資料１の現状と課題の内容については、現在の第５次計画を策定する前、第４次計画までを実施してきた中で発生した課題を整理したうえで記載しております。また、資料２の進捗状況は第５次計画を１年間実施してきた結果の数値ということになります。

○（伊藤（剛）委員）

分かりました。

○（岩切会長）
順調に推移してきているということですね。

○（伊藤（美）委員）
千葉市女性グループ連絡会の伊藤と申します。私たちの連絡会には１１団体が加入しており、主に中央コミュニティセンターで活動しています。
音楽や手芸、体験教室など、さまざまな活動を行っており、平成３０年度には発足から５０周年を迎えることになりました。
会員の高齢化とともに、活動する施設も老朽化してきており、それによる怪我や事故が心配になってきています。計画書にも学習環境の整備といった項目がありますので、ぜひ、快適な環境で活動ができたらと思っています。

○（岩崎委員）
私は国の研究所に長く在籍し、２年前に千葉市に本部のある放送大学に参りました。
千葉市との関係は、古くは基本計画の策定に関わったことがあり、その後もご縁があって、教育委員会事務点検・評価の生涯学習部門に長く携わっております。
これまで千葉市の生涯学習に関する施設や事業を見させていただいた中で、中学校区ごとに公民館が設置されていることや、図書館においても非常に熱意をもって取り組んでいる姿などを拝見し、他の都市と比べても非常に充実していると感じています。
事務点検・評価では非常に限られた時間の中で評価せねばならず、忸怩たる思いを抱えていましたが、今回、生涯学習審議会委員という機会をいただき、より千葉市を包括的に見ることが出来るのではないかと大変ありがたく感じています。
また、現在、千葉市新基本計画の政策評価部会の委員も務めておりますが、教育というのはなかなか数字には表れにくく、他の事業の評価と比べられるのは困るといつも伝えているところです。
特に、生涯学習というものは市民の自発性によるところが大きく、評価にはなじまない部分も多いのですが、それでも数値が上がってきているというのはとても素晴らしいことだと思います。
それでも、学習の意欲があってもそこに結びつかないケースや、地域づくりをどうしていったら良いかといったことについては、やはり教育的側面や社会福祉的側面からのアプローチも大切なことなので、この審議会ではそういった部分も含めて進めていっていただけたらと思います。

○（小川（達）委員）
小学校長会長の小川です。私は小学校の教員なので、その立場からお話しをさせていただきます。
現在、全ての小学校で実施している放課後子ども教室について、どの小学校でも地域のボランティアが運営を担っておりますが、もう１０年以上もメンバーが変わらずにきており、もう限界にきています。その中で、新たに民間委託がモデル的に開始しており、現場としてはできればその方向で今後も進めていってほしいと考えています。

次に、資料２の１ページ「１－１　生涯学習の普及啓発」の中の生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合という項目について、平成２７年度末５６．４％に対し平成２８年度末実績では１９．３％と大幅に減少していますが、１－２－１にある生涯学習センターの施設稼働率は目標を超えて大きく伸びていることから考えても、市民の生涯学習ニーズは高く、そういった情報の提供を求めているのではないかと考えられます。この辺りはどのように分析されていますか。

○（山田生涯学習振興課長）
この項目に関する割合の減少は、データの元となったアンケート内容の変化によるところが大きいのですが、実際にこういった数値が出ているということを踏まえ、生涯学習ニーズにマッチした情報の提供が行えるよう取り組んでいきたいと思います。

○（小川（達）委員）
わかりました。

○（岩切会長）
ありがとうございます。次回以降、こういった詳しい内容に関する議論が出てくることになると思いますので、よろしくお願いします。

○（小川（直）委員）
千葉市体育協会の小川でございます。
私ども体育協会は３９団体、登録人数は約６３，０００人となっております。平昌オリンピックでは過去最高のメダルを獲得したほか、東京オリンピック・パラリンピックも２年後に迫り、市内の幕張メッセでもオリ・パラ合わせて７種目が行われるなど、とても盛り上がっているようにみえますが、千葉市民のスポーツ実施率は全国平均を下回っております。中でも、６０歳以上の方の実施率はまだ高めですが、２０代～４０代の勤労世代の方たちのスポーツへの取組みが非常に低い状況となっております。
ご存じのとおり、千葉市の社会体育やスポーツ振興事業は教育委員会から市長部局へ移管されておりますが、生涯学習推進計画においてもスポーツ・レクリエーション推進事業の実施が位置づけられており、オール千葉市としてこのことに取り組んでいきたいと考えております。

○（金田委員）
金田と申します。私は県の経営者協会、労働委員会の所属で、また、もともとＪＦＥに勤めておりました。
企業は、社会教育の担い手のひとつとして非常に重要な役割を負っており、企業内で人材育成を行い社会還元していくとともに、外部の方々に対し、見学や体験などを通じてさまざまな経験の場も提供していると言えると思います。
またこのほか、企業の社員が地域に出て行き、スポーツ活動やボランティア活動などのさまざまな地域貢献活動も積極的に実施しております。

こういった観点から少しでも審議会のお役にたてればと思って参加させていただいております。よろしくお願いします。

○（河野委員）

千葉商工会議所の河野です。商工会議所というと珠算や簿記の検定といった印象が強いかと思いますが、我々の主な事業としましては、中小企業や小規模事業者の支援を中心に、地域の経済活動の活性化を図っております。

１，１５０人の会員で構成されておりますが、現在、中小企業の事業継承や人材不足の問題が出てきております。

今回、経済団体代表として会議に参加させていただいておりますが、生涯学習という分野についてはまだまだ知らない部分も多いので、皆さまのご意見をいただきながら勉強していきたいと思います。

質問ですが、資料２の進捗状況のうち、休止となっているものが２事業ありますが、これについて施設として影響はないのでしょうか。

また、加曽利貝塚の国特別史跡指定について、千葉市の経済活動に大きく寄与するものとして大きな期待を抱いているのですが、差し支えない範囲で今後の方針等についてお聞かせ願えればと思います。

○（志保澤文化財課長）

ただいまのご質問の１点目、資料２の施策２－１－２にある「ゆかりの家いなげの改修」についてですが、これは稲毛区の浅間神社のすぐ近くにある市の地域文化財に指定されている施設です。平成２８年度末の時点では改修工事の予算が措置されていなかったため、休止ということになっておりますが、３０年度予算で工事の費用が措置されましたので、３０年度末までには実施できる予定です。

続いて２点目の加曽利貝塚の関係ですが、国特別史跡に指定されたエリアと、その周辺の自然環境が残っているエリアについて、文化財としてだけではなく、観光資源としての活用も踏まえたうえで、専門家等の意見も伺いながら活用計画を策定しているところでございます。

３０年度の夏から秋頃には公表できるのではないかと思いますが、具体的な内容をお伝えできる時期が参りましたら、この審議会でも改めてご説明させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○（山田生涯学習振興課長）

ご質問のありました、資料２の施策１－２－６「南部青少年センター・みやこ図書館白旗分館」の改修工事についてですが、限られた予算の中で、必要度や優先度に鑑みて市の公共施設全体の改修を実施しており、なかなか予算措置がされないという状況がございます。この工事につきましては、直ちに実施しなければ施設の運営に影響を及ぼすものではありませんが、引き続き、市の関係部門と連携をとりながら、必要な予算の確保に努めて参りたいと考えております。

○（庄司委員）

千葉大学附属図書館の庄司と申します。

図書館ということで、計画書の施策１－２「学習環境の整備」に目が行くのですが、自ら学ぶという点においては、図書館の果たす役割は大きいのではないかと考えてます。

私の所属は大学図書館なのですが、千葉市図書館のネットワーク等にも参加しており、市民の皆さまに専門的な資料を提供するために開放しております。このことはあまり知られていないと思いますので、市の図書館とも連携、協働しながら周知に努めていきたいと思います。

○（武委員）

私は地域の自治会長を１０年、社会福祉協議会の地区部会長を８年やっており、地域福祉や地域介護の問題についてはかなり把握してきたつもりです。

そこで、地域の中に埋もれた人材をどう発掘していくかが難しい問題となっており、地域住民に対して教育を行っていくことについてはよく取り組んでもらっていると思いますが、教育を受けた人たちをどのようにボランティアなどに結び付けていくかという動きが足りないのではないかと感じています。

また、地域包括ケアシステムのように、地域の問題を地域で解決する仕組みの構築が求められてきており、生涯学習のテーマがこういった現代的課題に対応しているのかについても考えていく必要があるのではないかと思います。

２年ほど前から加曽利貝塚友の会の活動を始めたのですが、市の方針や施策に対し、地元の盛り上がりが小さいのではないかと感じています。友の会の会員も少ないため、地域の方たちにもっと関心を持ってもらうための活動に取り組み始めたところ、特別史跡指定と相まって、５０人しかいなかった会員が１５０人にまで増加しました。

今後も引き続き、こういった活動をもっと盛り上げていきたいと考えています。

○（長澤委員）

長澤でございます。私の専門は社会教育や公民館で全国へ行く機会も多く、最近は地域防災の関係で岩手県の大船渡市や熊本県の益城町の公民館へ調査に行ってまいりました。

大船渡には地域で管理する自治公民館が多くあり、その中で津波で大きな被害を受けた公民館を視察しましたが、震災による被害で世帯が減ってしまったため、１つの地域で自治会が組織できず､近隣の自治会と一緒に活動せざるを得ない状況になっているそうです。

また、益城町にも自治公民館が数多くあり、災害が発生した際には自治体が指定する避難所ではなく、使い慣れた近隣の施設に避難するケースが多いため、指定避難所ではない自治公民館には援助物資が届かず、避難所まで物資を取りにいかなければならないといった苦労があるとのことでした。

千葉市には４７の公民館のほか、各地区に自治会館などの施設がありますが、やはり自治会や町内会と連携しながら、地域の問題や課題について考えていく必要があると思います。

生涯学習推進計画において「学びを生かした活力あるコミュニティの形成」という目標を掲げていますが、この「コミュニティの形成」とはどういったものをイメージしている

のか、自治会や町内会との連携・協力によるコミュニティの形成というものを踏まえて、今後の計画について考えていかなければいけないと思います。

また、国では第３期教育振興基本計画の策定が進み、県にも同じように教育振興基本計画がありますが、こういったものの流れとの関係において市の計画も見直すべきところがあるのかどうかなども考えていきたいと思います。

最後に、資料２の成果指標における達成状況ですが、例えば公民館講座参加者の満足度は２８年度末で９８．５％となっていますが、達成状況は△になっており、これだけ満足度が高いのであれば◎でも良いのではないかと思いますし、また、この満足度はどのように算出したのかについても気になりました。

○（岩切会長）

ありがとうございました。今の指標に対するご意見は計画の詳細に関する内容になるため、次回以降ということでよろしいですか。

○（長澤委員）

はい、分かりました。

○（岩切会長）

では最後に廣﨑委員、お願いします。

○（廣﨑委員）

千葉市生涯学習センターボランティアということでこの審議会に参加させていただきました廣﨑と申します。

ボランティアと同時に、ＮＰＯ法人フォーエヴァーという、千葉市に芸術文化を根付かせようという目的の団体も立ち上げ、高校生のための「Ｃフェス」という音楽イベントを開催したり、千葉大学、県文化振興財団と共に創作狂言を行ったりしております。

資料２の「１－１　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」が低いわけですが、生涯学習センターの来館者数や学習相談数はどのような推移になっているのでしょうか。

また、さきほど放課後子ども教室の運営ボランティアについてお話が出ておりましたが、ボランティアセンターにご相談いただければ地域活動として派遣できるかもしれませんので、ご一考いただければと思います。

最後に、地域人材の活動場所として公民館がありますが、公民館のボランティア登録や活動の状況が分かれば教えていただきたいと思います。

○（山田生涯学習振興課長）

まずは生涯学習センターの相談件数ですが、平成２８年度は約２，８００件、２７年度は約２，４００件、２６年度は約２，３００件と、わずかながら増加の傾向にあります。

また、来館者数ではなく講座の受講者数になりますが、平成２８年度は約３７，０００人、２７年度も同じく約３７，０００人、２６年度は約３２，０００人と、こちらも横ば

いまたは増加となっております。
　公民館のボランティア状況につきましては手元にデータがございませんので、恐れ入りますが次回ご説明させてください。

○（廣﨑委員）
　了解いたしました。ありがとうございます。

○（岩切会長）
　皆さまありがとうございました。全てのご質問にご回答できてはおりませんが、時間の関係もございますのでご了承いただければと思います。
　委員の皆さまのお話の中には非常に大きな問題等もございましたので、事務局の方でも次回以降、ご回答いただけるものがありましたら、よろしくお願いいたします。
　私はこれまで、学校や教育行政といった立場から見てきたわけですが、今回、皆さま方のお話を聞きながら、改めて生涯学習という分野の広さに驚くとともに、多岐にわたる大変な内容を扱う審議会であると感じました。
　本日は皆さま、ありがとうございました。最後に事務局からお願いします。

○（大崎生涯学習部長）
　委員の皆さまよりいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。
　これから生涯学習推進計画の中間見直しを進めていく中で、個別に詳細な説明はさせていただきますが、放課後子ども教室につきましては、地域の人材不足、保護者からの要望などがある中で、市内全小学校でどのように効果的、効率的に推進していくかという極めて難しい問題を抱えております。
　今後、長期的な視点に立って放課後施策をどう進めていくかについては、３０年度中に放課後子どもプランを策定する予定であり、プランの内容等については改めてご報告させていただきたいと思います。
　加曽利貝塚につきましては、行政の力だけではなく、市民の保存運動などにより、特別史跡に指定していただけたものと思っております。
　しかし、まだまだ加曽利貝塚の価値というものが、若葉区の住民を含め、多くの市民の皆さまにご理解いただけていない状況であり、引き続きＰＲ活動を行いながら、博物館の移転を含む必要な施設の整備を進めていかなければならないと考えております。
　加曽利貝塚は、学術研究的な役割だけではなく、地域経済の活性化に資するような観光施設という側面も併せ持った施設として、整備を進めていければと考えております。
　最後になりますが、第４次生涯学習推進計画では生涯学習施設に重点を置いた内容でしたが、第５次の計画では、これらの施設を活用しながらソフト面の充実を図った内容になっております。
　公民館や生涯学習センターの稼働率は着実に上昇しておりますが、こういった施設を利用した人たちがどのように地域に還元しているのかといったものを指標に取り入れる必要もあるのではないかと考えております。
　こういった点も含め、今後の中間見直しで可能な限り対応していきたいと思っておりま

す。その際は委員の皆さまのご意見もぜひお願いしたいと思います。

○（岩切会長）

ありがとうございました。

以上で本日の議事は終了といたします。

問い合せ先　千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課
電　　話　０４３－２４５－５９５３
ファックス　０４３－２４５－５９９２
電子メール　shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp